

令和2年1月1日 第200号

社協だより

(1)

ふ・れ・あ・い

# いんいん

隣

隣

びほろ社協だより

発行 社会福祉法人  
美幌町社会福祉協議会

美幌町字東3条北2丁目1番地  
「しゃきっとプラザ内」  
電話 72-1165

発行責任者 森 暉夫 印刷 (株)美幌新聞社

## 第200号記念特集



社協だよりは、共同募金の配分金も利用し、発行されています。

# 新年のごあいさつ



## だれもが助けあって

美幌町社会福祉協議会  
会長 森 暉 夫

明けましておめでとうございます。  
町民の皆さまには日ごろ町の福祉にお力添えをいただいております。深く感謝しております。

昨年は、相次ぐ台風、局地的な豪雨で、東日本各地で水害、土砂災害など甚大な被害を出しました。亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げるとともに、一日も早い被災地の復興、復旧を願ってやみません。

さて、わが国は、世界でもトップクラスの長寿国です。私たちの美幌町も65歳以上のシニアが町の人口に占める割合、つまり高齢化率が今年度は、36%を超えると推計され、高齢のご夫婦のみの世帯、またお一人住まいのシニアの方の世帯も年々増えています。

町内では自治会による「たすけあいチーム」によって、声かけ、見守り活動が日頃から行われており、また、ボランティアの皆さまによるサロン活動、配食サービスや身体の不自由な方のための移送サービスなどが活発です。ですが、超高齢化社会では、こうしたボランティア活動だけでなく、だれもがお互い助け合ってこそ、住みやすい、長く住んでいたい、と思えるまちになるのではと思います。

私たち社協の役職員一同、この「だれもがお互いに助けあって」の心を胸に、“福祉でのまちづくり”に力を傾けてまいる所存です。

町民皆さまのお力添え、ご協力をお願い申し上げ、新しい年のご挨拶といたします。



## 共に「地域共生社会」の実現に向けて…

美幌町共同募金委員会  
会長 杉 原 重 美

明けましておめでとうございます。

町民の皆さまには、日頃から赤い羽根共同募金に対しまして、心温まるご理解及びご協力をいただきまして役員一同、厚くお礼を申し上げます。

近年、全国的に災害が多発して甚大な被害をもたらしておりますが、被災地では、町民の皆さまからの赤い羽根共同募金で積み立てられております「災害準備金」が大いに役に立てられました。

町内におきましても高齢者の社会参加、障がい児・障がい者の活動支援や地域福祉、ボランティア活動など多種多様に共同募金が活用されています。

共同募金活動への町民の皆さまのご理解は、共助の精神で地域の福祉活動に参加する「地域共生社会」の表れと認識しております。

一方、急激な人口減少と高齢化は、地域の福祉活動などの財政面には非常に厳しい影響をきたしており一層の支援活動が求められております。

共同募金委員会としては、福祉活動の財源たる赤い羽根共同募金並びに歳末たすけあい募金活動のための街頭募金をはじめ、企業、学校、自治会その他各イベント募金などに一層の努力をして参りますので、町民の皆さまの本年も変わらぬご支援の程よろしくお祈りを申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

### 謹賀新年



よき新春をお迎えのこととお喜び申し上げます  
皆様の益々のご健勝をご祈念申し上げます



美幌町老人クラブ連合会

会長 松倉 勇  
役員一同

美幌町身体障害者福祉協会

会長 影山 順一  
役員一同

美幌町遺族会

会長 池野本 満  
役員一同

# 社協だより 第200号を迎えて



びほろ社協だより「ふれあい りんりん」は、昭和48年2月1日に第1号が発刊され、今回の新年号で200号を迎えました。

経済成長が急速に進む当時において、「社会福祉は特定の方々のためでなく、町民全体に関心を持っていただき、町民とともに歩み続ける社会福祉協議会とするため、ご批判とともに暖かいご協力をお願い申し上げます。」と、当時の牧野泰仁会長が表紙に記されています。

同年4月は、事務局長と書記1名による社協事務所が新たに設置され、町内全世帯が社協会員として、会の運営のため年間1世帯50円をご負担していただくこととなり、現在の社協の姿のスタートになった年でもあります。

以来46年、当時予測しえない高齢化社会を迎えています、シニア世代が地域社会の福祉活動の中核を担っていく時代になっています。

社協だよりの題字「ふ・れ・あ・い りん隣・りん隣」の名のとおり、町民の皆さまやボランティアさんの笑顔あふれる支えあい活動をお伝えしてまいります。

## 社協だよりでたどる今日までのあゆみ

- |            |                            |
|------------|----------------------------|
| 昭和 48年 4月  | 社協職員2名（事務局長、書記）を配置し事務局を開設  |
| 49年 3月     | 社会福祉法人の認可を受ける              |
| 51年 11月    | 第1回老人クラブ連合会親睦演芸発表会開催       |
| 54年 10月    | 第1回美幌町社会福祉大会開催             |
| 60年 5月     | ボランティア連絡協議会発足              |
| 60年 9月     | 地域振興センターに社協事務所が移転          |
| 62年 8月     | 第1回ふれあい広場びほろ開催             |
| 平成 2年 6月   | 社協独自の配食サービス開始              |
| 5年 2月      | 自治会ごとにたすけあいチーム結成           |
| 6年 11月     | 老人クラブ連合会異世代交流芸能発表会に名称変更    |
| 10年 4月     | 美幌町ボランティアセンター設置運営開始        |
| 10年 7月     | たすけあいチーム活動連絡協議会設立          |
| 11年 10月    | 地域福祉権利擁護事業開始（道社会福祉協議会委託事業） |
| 12年 4月     | 介護保険制度スタート                 |
| 13年 4月     | コミュニティーセンターに社協事務所が移転       |
| 15年 3月     | 無料法律相談スタート                 |
| 15年 4月     | 生きがいデイサービス、移送サービス町から受託開始   |
| 15年 9月     | 美幌町ライオンズクラブから移送車寄贈         |
| 16年 10月    | しゃきっとプラザに社協事務所が移転          |
| 19年 1月     | カレンダーリサイクル市初開催             |
| 21年 4月     | 社協だよりふれあいいりんりに題名を変更        |
| 26年 3月     | 社協ホームページを開設                |
| 27年 10月    | 美幌町成年後見支援センター開設            |
| 29年 10月    | 道社協と「災害救援活動に関する協定」締結       |
| 令和 30年 12月 | 美幌町災害ボランティアセンターフォーラム開催     |
| 元年 10月     | 災害ボランティアセンター立ち上げ機能訓練開催     |



第8号  
遺族会沖縄遺骨収集



第100号  
記念特集号



第176号  
法人化40周年記念式典



# 赤い羽根共同募金 歳末たすけあい募金



## 中間報告

- ・赤い羽根共同募金 **2,787,817円**  
目標額 4,000,000円
- ・歳末たすけあい募金 **782,400円**  
目標額 1,600,000円  
(11月15日現在)

昨年10月からスタートしました共同募金活動に、多くのボランティア・小中学校・高校生の方々にご協力いただき、街頭募金を行うことができました。

街頭募金では、多くの町民の方々に励ましの言葉をいただき、心あたたまる思いとともに、貴重な募金をしていただきました。

皆様、本当にありがとうございました。



厳しい経済状況のなか、企業、商店ならびに団体からも心温まるご寄付をいただきました。

町内で募金された金額の約70%が美幌町内の福祉活動に活用されていることから、赤い羽根共同募金目標額達成に向けて最後までがんばりますので、ご支援をよろしくお願いいたします。



### 《歳末見舞金配分内訳》 ～皆様の善意を配分させていただきました～

・要保護世帯	95世帯	380,000円
	237人	711,000円
・障がい者（身体）	16人	80,000円
・障がい者（知的）	6人	30,000円
・寝たきり高齢者	5人	75,000円
・福祉施設（児童）	15人	75,000円

合計 279人 1,351,000円

歳末たすけあいにより美幌町内で募金された金額は、すべて美幌町内での見舞金として活用されています。



## 美幌町遺族会より平和の碑(戦没者慰霊碑)移設のご報告



役場新庁舎建設工事に伴う『平和の碑』の庁舎敷地内への移設事業を民生部、遺族会事務局とで協議を重ね、『平和の碑』解体、移設建立に財源については、全額3月定例議会に予算を付けて頂き、決議を頂き、『平和の碑』が建立することができました。町民皆様のご協力に衷心より厚く御礼申し上げます。

議決後早々に事業を進めさせて頂き、『平和の碑』移設に伴う修祓式、魂抜きのお神事を6月14日に執り行い後、6月22日から解体着手を始めました。

駐車場を使用する関係から町民の皆様に迷惑の掛からない様に、土曜・日曜日に施工の仕事を進めて頂きながら、9月20日完成することができました。

9月25日工事完成検査の上、同日引き渡しになりました。9月30日役員一同で移設工事完了確認後、美幌町戦没者429柱の英霊が眠る中『平和の碑』入魂式の日程につき相談の結果、10月16日の運びとなりました。お陰を持ちまして、美幌神社宮司様よりお祈りも美幌町長、議会議長、社協副会長のご参列の

中、厳粛の中に終了する事が出来ました。皆様のご協力に対し、衷心より感謝と御礼申し上げます。

戦後74年が経過し戦没された429名の皆様には最愛の肉親と別れ、住み慣れた郷土を後にして戦地に赴き、勇敢に戦い、ついに国に殉じられた方々であります。私達遺族は永久にこの思いを忘れる事なく心の寄り処として429柱の御慰霊を偲び、二度と戦争を起こさない事を誓い、世界の恒久平和を願って『平和の碑』を建立させていただきました。この『平和の碑』が永久に全町民の皆様がよくこの主旨を理解頂き、未永く見守り続けて頂ければ非常に有難き幸せに存じます。どうぞ皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

最後に美幌町の益々のご発展と皆様のご健勝をご祈念申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

美幌町遺族会 会長 池野本 満



## 『市民後見人フォローアップセミナー』開催



講師：藤井奈緒氏  
（『親なきあと』  
相談室関西ネットワーク）

の後見に必要なこと、市民後見人の存在がどれだけ尊く感謝されているのかなどについて学びました。

美幌町成年後見支援センターは、市民後見人登録者を対象としたフォローアップ研修を、11月15日、12月5日（全2回）開催しました。12月5日は講師に『親なきあと』相談室関西ネットワークの藤井奈緒代表理事を迎えました。『今、私たちにできること～知っている知らないでは大違い～』をテーマとし、親族後見のメリットデメリットを知ったうえで、市民後見人の役割を再考。また、身寄りのない方、いわゆる“おひとりさま”



## 第29回身体障がい者親睦ゲーム大会



10月20日、しゃきっとプラザ集団健診ホールで第29回の親睦ゲーム大会が行われました。会員20名の参加と美幌高校ボランティア同好会、来賓の方々にも一緒にゲームに参加していただきました。悪戦苦闘しながらも良い成績を収めようと一生懸命ゲームに取り組み、笑い声があふれる楽しい交流のひとつとなりました。



## 第40回異世代交流芸能発表大会

(主催：美幌町老人クラブ連合会)



令和元年12月1日(日)

びほーるに町内38老人クラブの会員が集い、日ごろ鍛えた唄や踊りが披露されました。また、幼稚園児の合唱・ピアノ演奏・中学校吹奏楽部の熱演に会場から大きな拍手が響きわたりました。

## 今年も やります！ カレンダーリサイクル市

令和2年  
1月

12日

**内容** ご家庭や企業にご協力いただき収集したカレンダー・手帳等を販売します。  
販売によって得た益金は、美幌町における障がい者福祉活動に利用されています。

自宅や会社などで使わない新年度のカレンダー、手帳、日めくりのご寄付をお願いしています。

1月9日(木)までにしゃきっとプラザ2階 社会福祉協議会へご協力をお願いいたします。



10:00～12:00  
しゃきっとプラザ 1階  
集団健診ホール

カレンダーリサイクル市実行委員会 TEL 7 2-1 1 6 5

※12月31日～1月5日はしゃきっとプラザが休館のため受け取りはできません。

網走市

# 令和元年度 オホーツク圏市民活動 ボランティアフォーラム



10月19日に網走市エコーセンターにて「オホーツク圏市民活動ボランティアフォーラム」が開催され、美幌町のボランティア関係者31名が参加しました。

午前に管内5団体による実践発表が行われ、美幌高校ボランティア同好会が登壇し、福祉施設訪問や募金活動など日頃の活動を紹介しました。高校生による実践発表は初めてでしたが、内容も話し方も素晴らしく、参加者からは大きな拍手が送られていました。

美幌・津別・大空

## 3町 ボランティア 朋のつどい



美幌・津別・大空の3町の社会福祉協議会が、毎年持ち回りで開催している「3町ボランティア朋のつどい」が11月21日(休)、町民会館で開かれ、3町合わせて118名のボランティア活動実践者が参加しました。午前中は、胆振管内厚真町や千葉県鋸南町の災害ボランティアセンターで活動した西脇一宏福祉活動専門員の実践報告と、終活ガイドの資格を持つ藤田浩孝地域福祉推進室長による「難しい言葉を使わない

終活のお話」の講演・演習、午後からは美幌町生活支援・介護予防体制整備推進協議体の菅原英子委員と、美幌町役場介護保険担当 大内聡子主査による介護予防体操や脳トレで頭と身体を動かしました。来年度は津別町での開催です。

## ナルク美幌からまつ

### ～ 設立10周年 ～



ナルク美幌からまつ(松本光男会長)が10周年を迎えました。「自立、助け合い、奉仕の理念」のもと、平成21年11月に48世帯78人の会員で発足。時間預託活動や花壇整備などの社会奉仕活動のほか、サロン活動、各種クラブ活動で会員間の交流を深め、現在の会員は81世帯181人に増え、10月26日(土)に行われた記念式典では松本会長が「『入っていて良かった』と思える活動を目指していきたい」とあいさつされました。

美幌町

## 美幌町ボランティア 『輪の集い』

美幌町ボランティア連絡協議会(坂田美栄子会長)の「輪の集い」が10月11日(金)にしゃきつとプラザにて開催され、協議会に登録している11団体51名が出席しました。講師に網走市の「台町高齢者を支援するボランティアの会」会長の中村眞理子氏をお迎えし、「高齢者の居場所づくり」をテーマに講演いただきました。中村氏がサロンで実践しているレクリエーションの実技もあり、歌あり笑いあいの楽しい集いとなりました。



## 美幌町災害ボランティアセンター

## 10/27 初の立ち上げ機能訓練実施 ～住民とともに～

美幌町ボランティアセンター運営委員会  
運営委員長 平澤一樹

美幌町で初めての「災害ボランティアセンター立ち上げ機能訓練」が行われました。この訓練は、次のような状況でボランティアセンターを立ち上げた場合の運営の練習（訓練）を狙ったものです。

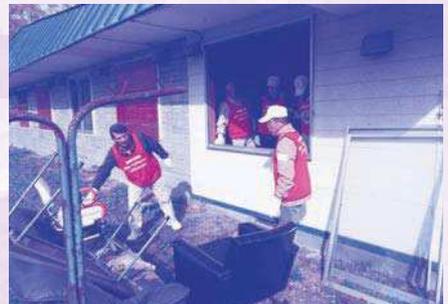
- ①美幌町において、地震と大雨が発生する。
- ②災害発生1週間後、被害状況が明らかになり、地震により倒壊した家財の搬出、大雨浸水による泥出し等のボランティア派遣の要請が美幌町役場や美幌町社会福祉協議会などへ届けられる。
- ③社会福祉協議会は災害ボランティアセンターを立ち上げ、ボランティア要請の把握とボランティア登録（募集）を広報する。
- ④事前登録していただいた方々を調整して災害ボランティアセンターに集まっておき、要請のあった住宅等で復旧作業等をしていただく。

今回の訓練を通して、次のような課題を確認することができました。

- ①来ていただいたボランティアの方々への事前説明（オリエンテーション）の大切さ。
- ②マッチング時の的確な指示の必要性。
- ③テントの設置や必要物品。

災害ボランティアセンターは、事前登録型（厚真町災害ボランティアセンター方式）で行います。それは、事前登録していただくことで派遣先等を事前に調整でき、被災者、活動者が混乱せずに効率的に復旧作業にあたることができると考えているからです。

今回は何名かの若い方々にもご協力いただきましたが、次回はボランティア活動への啓蒙もより積極的に行い、より多くのボランティアの方々にご協力をいただきたいと思いますので、ご協力の程、よろしくお願いいたします。



## 令和元年度美幌町災害ボランティアセンターフォーラム — 120名が集い、住民力を高めるための自助力、共助力を学ぶ —

住民力、そのときワタシはどう動く〜まちに懸ける架け橋〜



令和元年度美幌町災害ボランティアセンターフォーラムを12月6日(金)災害時に重要な自助力、共助力を学び、住民力を高めることを目的に町民会館にて開催。自治会長、民間福祉関係者ら120名の町民の方々に参加いただきました。

フォーラムは2部構成で、たすけあいチーム活動推進協議会、自治会連合会福祉部会、社会福祉協議会が主催し、ボランティアセンター運営委員会が主管。

第1部は、台風15号で被害を受けた千葉県鋸南町の災害ボランティアセンターへ派遣した西脇一宏福祉活動専門員が帰任報告。

第2部は、厚真町社会福祉協議会の村上朋子さんを招へいし、『住民力、そのときワタシはどう動く〜まちに懸ける架け橋〜』をテーマに、平成30年胆振東部地震の被災から現在までの住民支援、心身ケアの重要性を講演いただきました。

村上さんは、災害がないと思い込んでいた厚真町で大地震が起こり、町と社協の情報共有ができず混乱した被災当時を説明。その上で「行政や住民は、災害に備えて連携を強めておく必要がある」と提言されました。

村上さんは、「私たち社協職員らが被災したからこそ、仮設住宅の人々に共感できる。頑張っても先が見えず、頑張れない時期が来る。そのために仮設住宅の人の悩みを聞く心のケアが重要になってくる。」と語られました。自治会を中心とした見守り活動にも触れ、「美幌町は自治会の活動が盛んだと聞いています。災害を想定し、何ができるか今のうちから考えておいて欲しい」と住民力を高める契機となる言葉を強く発信いただきました。



心温まるご寄付をありがとうございます。



社協のHPへ  
ジャンプ!

社会福祉のために、いつも温かいご寄付をいただきありがとうございます。心より厚くお礼申し上げます。地域福祉のために有効に活用させていただきます。

高額寄付

■社会福祉事業のために 30万円 松緑神道大和山美幌支部 様

寄付金

■香典返しを廃して

- ・佐藤 みゆき 様
- ・刈田 光也 様
- ・稲井 富士雄 様
- ・服部 孝行 様
- ・亀石 喜代子 様
- ・和田 敏子 様
- ・佐野 栄 様
- ・千葉 スエ 様
- ・瀬林 初子 様

■社会福祉事業のために

- ・美幌歌謡連合会 様

■美幌町遺族会へ

- ・池野本 満 様

■災害ボランティアセンター  
立ち上げ機能訓練協賛

- ・美幌町連合商店会 様

■台風第19号災害義援金

- ・美幌町民生委員  
児童委員協議会 様
- ・美幌消費者協会 様
- ・美禽長寿クラブ 様

寄贈品

■エコキャップ

- ・高橋 嘉男 様 ・ひまわり保育園 様 ・焼肉居酒屋力 様
- ・(株)美幌自動車工業 様 ・(有)北光興産 様 ・野添 誠 様
- ・明治安田生命北見北営業所 様 ・まちなか斎場 様

■リングプル

- ・美幌町立東陽小学校 様 ・喫茶琴 様
- ・ワークセンターびぼろ 様 ・佐々木 鐵雄 様 ・渡辺 富雄 様

■エコキャップ、リングプル

- ・加藤 忠義 様 ・美幌こども食堂 様 ・報徳南老人クラブ 様
- ・松田 武則 様 ・明治安田生命美幌営業所 様 ・高山 吉秋 様
- ・美幌消費者協会 様 ・日の出シルバー会 様 ・伊能 公子 様
- ・竹岡 末子 様 ・どんぐりの会 様
- ・あさひデイサービスセンター 様
- ・公明党すみれ会 様 ・藤工業(株) 様 ・平尾恵右 様
- ・加藤 進 様 ・五十嵐とみ子 様

■使用済切手

- ・(有)古館板金工業所 様

■使用済切手、リングプル、エコキャップ

- ・鈴木 英巳 様

■使用済切手、リングプル、エコキャップ、あて布、タオル

- ・美禽長寿クラブ 様

■エコキャップ、リングプル、タオル、雑巾、固形石けん

- ・JAびぼろ女性部 様

■あて布、リングプル、エコキャップ

- ・緑ヶ丘老人クラブ 様 ・北2丁目たすけあいチーム 様

■毛糸靴下

- ・阿部 貴子 様

■毛糸靴下カバー

- ・今野 百合子 様

■ジャージーカバー

- ・佐野 栄子 様

■リングプル、くつ下カバー

- ・中村 喜美栄 様

■あて布

- ・美幌町婦人防火クラブ 様

■車椅子、松葉杖、シャワーチェア他

- ・高橋 敬子 様

■雑巾

- ・ナルク美幌からまつ 様 ・仲町クラブ 様



〈ひまわり保育園エコキャップ寄贈〉

あとがき



明けましておめでとうございます。令和の時代となって初めての元旦を迎え、この社協だより「ふれあいりん」も昭和48年2月1日の創刊から平成7年1月1日の第100号を経て、ここに第200号の発行に至りました。昭和から平成そして令和へと、正に三代に亘る社協の歩みを振り返る時、実に多くの皆様の御支援、御協力に支えられて今日に至っていることを改めて実感します。心より感謝と御礼を申し上げます。

一方で、この間における地域福祉を取り巻く多様な環境の変化と、求められる福祉サービスの多岐に亘る広がりもより実感するところですが、皆様がこれまでの活動で培われてきた力の一つにして、誰もが安心して暮らすことのできる地域福祉の実現と、「人」が「人」を支え合うしなやかな地域づくりを目指し、皆様と共に、その第一歩を力強く踏み出して行きたいものと思います。(梁谷 記)